

＝キタスカ5周年に向けて＝

北部地域住民自治協議会
副会長 奈良 隆吉

早いもので、今年は北部市民サービスセンター開館5周年目を迎えます。

ようやく「キタスカ」と言う言葉が、地域にも定着してきたように思います。

協議会では、自主事業に特に気を遣いながら検討を繰り返し実施しておりますが、お陰さまで多くの皆さんから喜びの声が届いております。しかしながら少子高齢化による人口減少が進み、若者が少なくなり、地域に「元気」がなくなっている現状には、少し淋しさを感じます。

地域に元気さ！活気さ！を取り戻そうと言う思いは、北部8地区の共同の課題であり、今年は「地域を良く知ろう！知ってもらおう！」と言う、地域アピール活動を取り入れた自主事業を考えております。

5年目を迎え、また豊かな創造をもって新たな活動に挑戦をして参りたいと考えております。

今後も尚一層、皆様のご理解あるご協力の程、よろしくお願いいたします。

キタスカ講演会 『佐竹本三十六歌仙』

日 時：平成26年11月26日(水) 午後1時30分～3時

演 題：「佐竹本三十六歌仙の流転」について

講 師：佐藤 佳紀 氏（佐竹本三十六歌仙歴史美術愛好会 会長）



現存する最古の歌仙絵巻としての説明があり、参加した85名の方々は鎌倉時代の絵巻本が長期にわたり佐竹藩が所蔵していたが、さまざまな理由から三十六歌仙絵巻が流転したことなど貴重な講話に聴き入っていました。

講演では、おおもとのやかもち『大伴家持』の万葉集最後の作品の紹介がありました。

「新しき 年の始めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事」

「歌意」新しい年のはじめである初春の今日、降り積もる雪のようにいよいよ重なれよいことが、雪は豊年のしるし慶賀の意を表現している。



降り積もる雪には今年こそ良いことがあるようにと切ない願望があり、いやしけ吉事と言うのも深く期待していること、しかし家持がいくら望んでもその可能性はないのである。

この歌は、万葉集の最終歌であるが、この一首はそれなりに最終を飾る意味があると言われております。

「冒頭の歌が雄略天皇の御製で始まり、最後を飾る家持の新しきの歌が公的な祝福の歌で終わるのも、その意味に於て理解される」（上代日本文学）と述べている。



キタスカ公演会 『マジック＆アコーディオン』

日 時：平成26年7月6日(日) 午後1時30分～3時

第1部：アコーディオン演奏

出演者：メロー☆アコーディオン



☆アコーディオンとギターの息の合った音色に聴衆者はうっとり聴き入っていました。

第2部：ブラボーマジックワールド

出演者：ブラボー中谷



☆マジックあり、トークありの笑いの中にも素晴らしいマジックワールドを見せてくれました。



ポーセラーツに挑戦

「マグカップやお皿に装飾して
オリジナル作品を作ろう」



日 時：平成26年10月17日(金)

午前10時～正午

講 師：松岡智子氏(創作工房 智 TOMO)

初めての方も多かったが、先生の丁寧な指導のもとオリジナルの素敵な作品に仕上がりました。

川口洋一郎の『クラシック音楽入門講座Ⅱ』

クラシック音楽入門講座を、今回も 川口洋一郎氏を講師に迎えて、平成26年11月から5回にわたって、当センター音楽室において実施しました。

受講された方々からは、遠い存在であった有名な作曲家達の、性格やその時の時代背景など、易しい解説を交えた講座で、難しかったクラシック音楽が、とても身近に感じられました。全くの初心者でしたが、回を重ねる事で、楽しみがわいてきました。などの感想が寄せられました。



【キタスカ油谷これくしょん展】

期 日：平成 26 年 7 月 1 日(火)～31 日(木)

たくさんの皆さんから懐かしく見ていただきました。
また 子どもたちは昔のゲームに大喜びでした。



【佐竹本三十六歌仙】

模写本「佐竹本三十六歌仙絵巻 二巻」
(土谷秀禾により模写された絵巻)

期 日：平成 26 年 11 月 20 日(木)～26 日(水)

展示ホールをご利用ください。
詳しくは当館へお問い合わせください。

～北部 8 地区歴史探索～

シリーズ第6回 外旭川地区

= 発展する外旭川 =



『日本一大油田発祥の地』石碑

外旭川地区振興会
副会長 清 水 銀次郎

外旭川地区は明治初期、八柳村、神田村、水口村、笹岡村の四村がありました。明治 21 年に「市制町村制」が公布され、翌 22 年には外旭川地区四カ村が、外旭川村となりました。古くから農業が盛んな地として、実りの秋を迎える頃は、黄金色の田園風景が、時を超えた現在も広がります。

合併当時、四カ村の戸数は 264 と記されています。また、外旭川地区は日本最大の産油量を誇り、「日本一大油田発祥の地」と刻まれた石碑が卸売市場正面向かいにあり、全盛期だった昭和 20 年・30 年代を偲ばせる機械が今でも点在し稼働しています。

昭和の大合併時、昭和 29 年には秋田市と合併し、現在に至っております。当時の人口は約 560 世帯 3,800 人でした。

そんな外旭川地区も、今では、40 町内、5 千を超える世帯を有し、人口は約 1 万 5 千人、市内でも人口増の地区となっております。

発展する地区内には、幼・小・中学校があり、地域内の児童生徒ほとんどが通う一貫教育的な環境にあり、PTA はもちろん、地域の各種団体が温かく見守ってくれる、子育てにも恵まれたところでもあります。

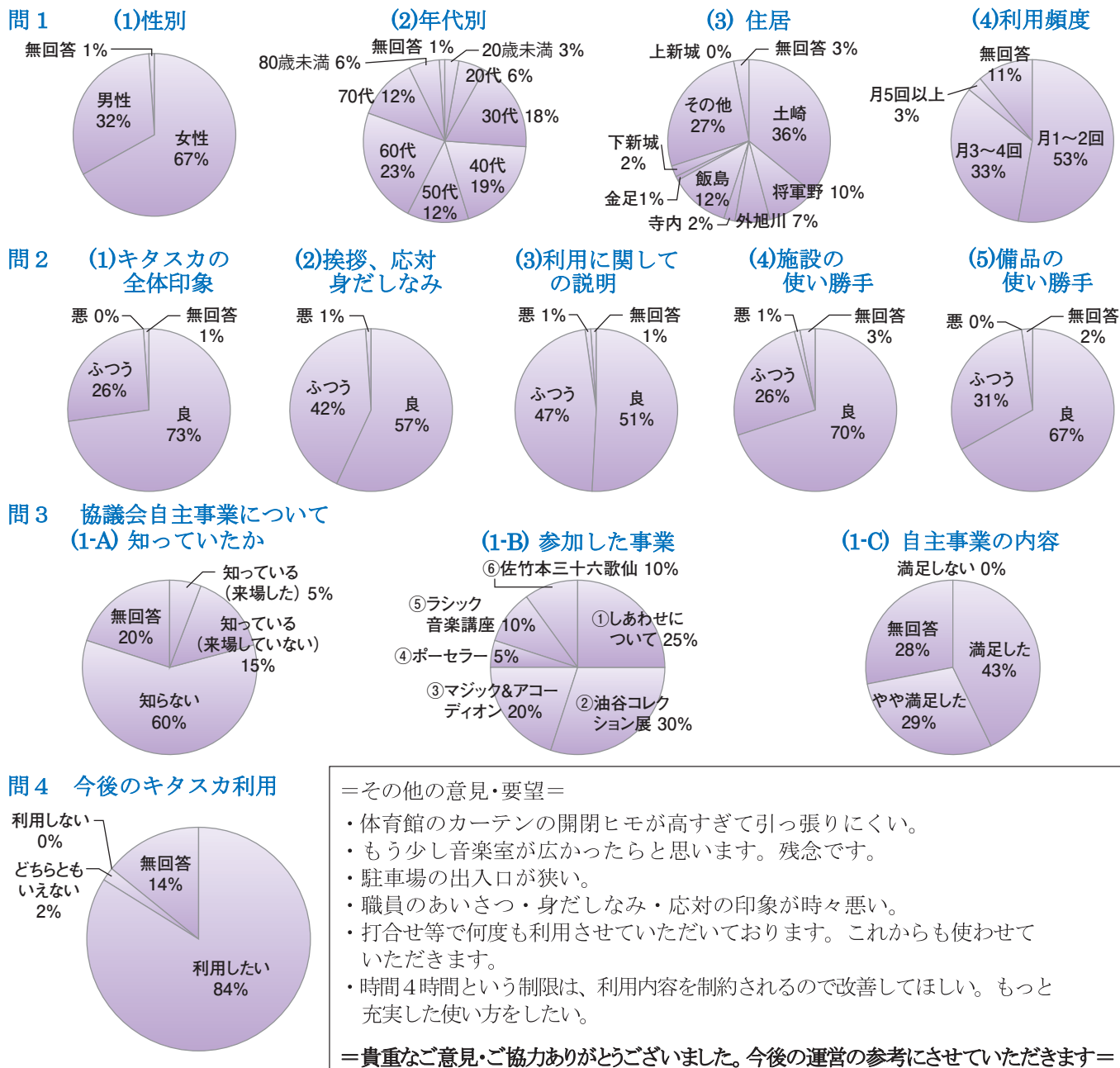
今後、地域住民が望む新駅が設置され、大型の集客施設がオープン運びとなれば、外旭川地区のみならず、北部地区全体の発展が見込めるものと期待しております。



産油量日本一を誇った時代の外旭川



現在の石油槽



サークル紹介

＝ 愛 祭 会 ＝

藤井 睦

私達、愛祭会は曳山まつりを愛する小学生～50代の男女32名で構成されているサークルです。

民踊、舞踊、郷土芸能の練習に励み、おまつりはもちろん、ボランティアにも積極的に参加し、元気に楽しく活動しております。

例会日：毎月第1・3月曜日 19：00～21：00



＝裏千家水曜茶道サークル＝

高田 千穂

昭和49年4月に発足し、茶道の基本点前の習得と親睦をモットーに楽しく活動しております。毎月の例会は基本点前を正確にきっちりと勉強しています。

その後昼食をとりながらのおしゃべりも楽しみの一つです。キタスカまつりではお茶席をもち多くの皆様にお茶をさし上げて喜ばれております。

例会日：毎月第2・3水曜日 9：30～12：30

